

開講年次・時期	2年通年	授業回数	30回	時間数	60時間	必修・選択	必修	授業形態	演習	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	-------	----	------	----	-----	-----

科目コード	NK430	科目名	保育実践演習	担当者名	手塚理香子(実務家教員)他専任教員
授業の概要	保育・教育をはじめとした社会のさまざまな事象について興味・関心・問題点をもって捉え、保育実践的な視点で調査・研究を進めた上で論文製作と成果発表を行う。学校現場(小学校勤務)における経験がある教員が、その経験を活かして、研究の方向性や課題点を指導する。				
科目の到達目標	1. 調査・研究した内容を論文形式や、それに伴う成果物としてまとめることができる。 2. 中間発表会及び最終的な発表会(保育実践演習発表会)において、研究成果の内容をプレゼンテーションできる。				
DPの観点	②表現力(10), ③柔軟性(10), ⑥専門知識・技能(40), ⑦思考力(20), ⑨主体性(20)				
授業時間外学修(予習・復習)	予習:各自が設定したテーマに基づき資料収集, フィールドワークや調査等を通してデータを精査する(毎回, 2時間程度)。 復習:データを基に論文執筆およびプレゼンテーション作成に関して, 各進捗状況を確認し精査する(毎回, 2時間程度)。				
フィードバックの方法	ゼミでの継続的なディスカッション, 専任教員による添削等を通じて研究の方向性や課題点を随時フィードバックする。				
単位認定の要件	研究テーマが保育実践に関する論文や成果としてまとめられていることに加え, 論文作成活動とプレゼンテーションの準備・練習・遂行に取り組んだ成果として, 発表が成立していること。				
評価の方法・割合(%)	提出物(60%:論文50%と抄録10%), 発表(30%:プレゼンテーションや最終発表への取り組み), 授業内活動(10%:論文作成活動のための資料収集活動や中間発表への取り組み)で総合的に評価する。				
履修上の注意事項	年間を通じた調査活動であるため計画的に進めることを求める。明らかなコピー&ペーストまたは剽窃と思われる内容は認めない。				

回数	予定	実施	テーマ・内容	観点	方法
1			ガイダンス, テーマの設定について/学生振り返り記録システムへの入力	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
2			チューターによる個人面談とテーマ設定について	③, ⑦, ⑨	面談
3			研究レポートの書き方について(全体)	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
4			研究計画の立案① 研究テーマの候補のリストアップ	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
5			研究計画の立案② リストアップした研究テーマの吟味・検討	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
6			研究計画の立案③ 研究計画書の立案	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
7			研究動機の明確化と文献資料収集①	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
8			研究動機の明確化と文献資料収集②	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
9			研究動機の明確化と文献資料収集③	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
10			中間発表会にむけた準備①発表メモの準備	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
11			中間発表会にむけた準備②発表メモの修正と発表準備	③, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
12			中間発表会(全体)	③, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
13			中間発表会後の研究計画見直し・夏季休業中の課題(目標)等の設定	③, ⑥, ⑦, ⑨	コミュニケーションカード
14			学生振り返り記録システムへの入力・研究レポート全体の構成を考える	③, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
15			研究レポート序論の執筆①	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
16			研究レポート序論の執筆②	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
17			研究レポート序論の執筆③	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
18			研究レポート各章の執筆①	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
19			研究レポート各章の執筆②	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
20			研究レポート各章の執筆③	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
21			研究レポート結論の執筆と全体の構成の推敲・調整	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
22			研究レポート全体の構成の推敲・調整と抄録の構成・作成	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
23			プレゼンファイルの作成方法について(全体)と抄録の作成	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
24			研究レポートと抄録の提出	③, ⑥, ⑦, ⑨	面談
25			プレゼンファイルの作成① ファイルの構想を練る	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
26			プレゼンファイルの作成② ファイルの作成	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
27			プレゼンファイルの作成③ ファイルの作成	②, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
28			発表会リハーサル 内容、方法、時間配分の最終確認	③, ⑥, ⑦, ⑨	ディスカッション
29			保育実践演習発表会	②, ⑥, ⑦, ⑨	コミュニケーションカード
30			保育実践演習発表会	②, ⑥, ⑦, ⑨	コミュニケーションカード
期末試験			実施しない		

使用テキスト	各自のテーマに関連した文献や資料等を紹介する他, 資料・レジュメを配布する。
参考文献 参考URL	河野哲也(2014)「レポート・論文の書き方」第3版 慶應義塾大学出版会 論文の書き方, プレゼンの仕方に関する資料については随時配布予定。
備考	進行状況により, 授業のテーマ・内容は変更になる場合がある。

DPの観点	①聴く力②表現力③柔軟性④協調性⑤社会性⑥専門知識・技能⑦思考力⑧実践力⑨主体性⑩問題解決力
-------	--

授業の自己評価	
---------	--